

世界の状況を日本へ

富山国際大学付属高等学校 二年 伊野 帆南

フィリピンの首都・マニラにある最も大きなスラム街、トンド。ゴミ捨て場には三十メートルの高さにも及ぶゴミの山があり、そこで三万人もの人々が生活している。極度に不衛生かつ危険な環境のせいで、十五歳まで生きられる子供は三人に一人だと言われている。学校へ行くことはおろか、生きることさえままならない子供たちが、日本からそう遠くない国で今も苦しい生活を強いられているのだ。このようなことを知っている日本人はどれほどいるのだろうか。

同じアジアでこのような事態が起こっているにも関わらず、日本で報道される

ことは滅多にない。アメリカを代表するニュース局「CNN」では、起こった事件現場の映像をほとんど隠すことなく報道し、日本では報じられることのない部分も視聴者に伝えているように思える。そのため、日本に住んでいる私達が普段観ているニュース番組とは違った、ショッキングな映像も流れている。

私がニュージールランドでホームステイをした時、そのような番組を観る機会があった。とあるテロ事件に巻き込まれた子供たちがひどい怪我を負い、必死に助けを求めているのだ。日本のニュース番組ではまず目にするのではない、ストレートでショッキングな内容。思わず目を覆ってしまった。すると、日本に滞在したことのある私のホストファミリーは言った。「日本ではあまりこのような映像は流れないね。」その言葉を聞き、私は日本と海外のメディアには大きなギャップがあるように感じた。

私は高校で新聞部に所属している。学校や自分たちの周りで起きたことを、新聞を通して生徒たちに日々伝えている。様々な紙面を作っている中で、多くのことを知り、考えさせられた。「知る」ということは、それについてを改めて人に考えさせ、考えを変えさせることさえできる行為だと思ふようになった。正しい情報を伝えなければ、大衆の考えは間違った方向に進んでしまう。日本のマスメ

ディアは慎重に情報を伝えているように見えるが、それも度が過ぎて本当に伝えなければいけないことを伝えていないような気がする。そのせいで、多くの日本人は世界の状況を正確には知らない。ぼんやりと「大変だな、かわいそうだな」としか思うことができないのだ。

私は将来マスメディアに携わる仕事に就き、日本のマスメディアを変えていきたいと考えている。現地で出来る限り多くの人からナマの声を聞き、多くの情報を得て余すところなく世界から日本へと発信したい。世界で起きていることを直接的に、正確に、日本人へ伝えていきたいのだ。そうすれば、日本人は世界で本当に起きていることを知り、自分たちの生活を見直すことができるはずだ。見慣れない光景に最初は受け入れがたく思ってしまうかもしれない。だが日本人には少なからず、なんとかして今の世界を変えようという気持ちはあるはずだ。情報を人に提供することは、その人の考えを変えたり、行動を起こさせたりするきっかけとなるのではないかと思う。今からでも、高校新聞部員という自分の立場から、まずは自分の周りの人たちへ発信していきたい。多くの人が知れば、世界中で困っている人を救い出す方法が見つかるだろうし、全員で行動を起こすことで大きな力が生まれるはずだ。そして日本人の特徴である高い理解力と豊かな感性

が、そこで発揮されるに違いない。発展途上国への支援も、更に大きなものとなるだろう。私の力は微力ではあるが、周りの多くの人たちの協力を得られればより大きなものにすることができる。そのためにも、世界のことをもっとたくさん知り、日本へ発信していくための力にしたい。